

古代の人のおまじない

紫香楽宮跡（宮町遺跡）出土木製品

奈良時代中頃の1時期、みやこが置かれた紫香楽宮跡（宮町遺跡・信楽町宮町）の発掘調査では土器や木簡とともに様々な木製品が出土しています。下駄や容器などの生活用品や工具のほか、祭祀（おまじない）に使われた木製品も多く出土しています。

そのひとつが人形代（写真上）です。短冊状の薄い板の上部を丸形もしくは三角形に整形し、頭形をつくります。頭の下部左右から切り込みを入れて頭部と体部の境目を作り出し、腰のあたりから斜めに切り込みを入れて手を表現します。足の表現方法はいくつかありますが、下端から上に向かって逆V字状に切欠いて表現します。顔面部分は墨書で目・鼻・口・ひげなどを表現します。

もうひとつは馬形代（写真下）です。扁平な板材を削り出し、馬の側面形を作り出したもので、鞍の表現があるものもあります。脚部を作らないため、馬に見えないかもしれませんが、よく見ると口や耳の表現から馬であることがわかります。これらの木製人形代と馬形代のセットは、7世紀後半頃から

見られ、疫病をもたらす鬼神を祓う祭祀に用いられたと考えられています。奈良時代は天然痘という恐ろしい疫病が流行した時代で、災いをもたらす神を人形代にうつし、馬形代はその乗り物に見立てて使われました。奈良時代後半頃からは鬼神の依り代としての使用方法から個人の病氣平癒などを祈る身代わりとしての使用に変化したことが指摘されています。現代の流し雛にも通ずるおまじないがすでに奈良時代からあったことに悠久の歴史を感じます。紫香楽宮調査事務所展示室では発掘調査で出土したものや調査成果を展示しています。ぜひご来館ください。（平日8時30分～17時）



出土した人形代・馬形代

問 歴史文化財課 埋蔵文化財係 ☎ 69-2251 ☎ 69-2293

行くも、万博

2025大阪・関西万博の催事「LOCAL JAPAN展」に出展します

地域にあふれる「日本の奥深さ」を五感で楽しみ、味わえる体験型コンテンツが展開される催事となっており、信楽焼を中心に市の魅力を国内外に広くPRします。

地域のコラボレーションがテーマのこの催事では、本市は新潟県三条市との共創によるブース展示を行います。



新潟県三条市って？

新潟県のほぼ中央に位置する、鍛冶を中心とした金属加工業の盛んなものづくりの街です。

「越後三条打刃物」と呼ばれる、高温に熱した金属を金型で叩いて形を整える「鍛造」という技術を用いて製造する刃物が有名です。市内には、鍛冶を体験できる施設や、ものづくりを体験・見学できる「オープンファクトリー」が多数整備されています。

三条市観光協会Instagram▶



信楽の陶業と三条市の金属加工業の共創から生まれる新たな魅力にご期待ください。

©Expo 2025

LOCAL JAPAN展

●開催日 2025.7.28→7.31

LOCAL JAPAN展サイト▶



問 政策推進課 ☎ 69-2106 ☎ 63-4554

共生社会をはじめてみよう

だれもが、温かい気持ちで年越しプラットフォームを～年の暮れの夕暮れに～

めまぐるしく変化する時代、だれもがほっこりできる居場所を必要としています。

だれもが「温かい気持ちになって年を迎えてもらいたい」との願いから、今年度も、令和6年12月30日に、市内の福祉施設で、困窮者支援と孤立防止の目的で炊き出しが行われました。

3回目になる今回の炊き出しは、市民活動グループ【みんなでe-こうか】の声掛けで、地元のまちづくり協議会や市内の社会福祉法人やボランティア有志によって炊き出しのふるまい、送迎、相談対応がされました。

ひとり暮らし高齢者、ひとり親家庭、ひきこもりがちの人、不登校傾向にある児童や生徒等で約200人が温まりました。また、外国にルーツを持つ方が多く来られる機会にもなりましたので、ポルトガル語、スペイン語による防災啓発が市の担当職員から行われました。

食材は、eこころステーションをはじめ、フードバンクびわこ、市内外の企業、個人事業所からの寄付で集められました。

主催者は、「普段は出会うことのない方々が、談笑しながら交流される様子こそ、甲賀市が勤める《第四の縁》づくりにつながったのではないかと話されていました。



ふるまわれたお手製のおにぎり



たくさんの参加者でにぎわう会場



外国人市民の方に防災啓発を行っている様子



問 地域共生社会推進課 ☎ 69-2155 ☎ 63-4085